Volume 128（2018年2月）

JRRN Newsletter

日本河川・流域再生ネットワーク http://www.a-rr.net/jp/ https://www.facebook.com/JapanRRN

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目 次 Pages

- JRRN 事務局からのお知らせ…… 1
- 会員寄稿記事…… 4
- JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ…… 7
- 会議・イベント案内 & 書籍等の紹介…… 8

JRRN 事務局からのお知らせ（1） *JRRN Activity Report*

小さな自然再生普及プロジェクト『第８回小さな自然再生現地研修会 in 秋田(2/27)』参加者募集！

本年度３回目となる、「小さな自然再生」の普及促進に向けた現地研修会を、2月27日（火）、秋田県大仙市で開催致します。

「小さな自然再生と地域が親しめる水辺づくり」をテーマに、秋田県建設部河川砂防課との共催で行なう本研修会は、座学研修とワークショップに特化し、意見交換の時間を充実させた研修内容となっています。

参加申込みは、以下の JRRN ホームページをご覧ください。（*2/20* 申込〆切、*80* 名先着順ですのでお早めにお申込みください。会場アクセス等の詳細は案内チラシをご確認ください。）

http://jp.a-rr.net/jp/news/info/867.html

なお、本活動は（公財）河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。 （JRRN 事務局・佐治 史）

第 8 回 「小さな自然再生」現地研修会 秋田県大仙市・斉内川

●日時： 平成 30 年 2 月 27 日（火）9：30 ～ 17：00

●主催： 「小さな自然再生」研究会

●共 催：秋田県建設部河川砂防課、日本河川・流域再生ﾈｯﾄﾜｰｸ(JRRN)

●会 場：大曲地域職業訓練センター・2 階 講義会議室

●定 員： 80 名（先着順です）

●プログラム： ※（一社）建設コンサルタンツ協会認定 CPD プログラム申請中

（9:30-12:00）「小さな自然再生」に関する座学研修

－小さな自然再生のすすめ「河川生態系のしくみ」（三橋弘宗：兵庫県立大学自然・環境科学研究所）

－事例紹介「小さな自然再生と多自然川づくり」（岩瀬晴夫：㈱北海道技術コンサルタント）

－事例紹介「小さな自然再生の留意点」（瀧 健太郎：滋賀県立大学環境科学部）

（13:00～14:00）地元の取組みと現地の状況説明

－地元の取組み紹介＆現地の状況説明「河川工事における現状と多自然川づくりへの取り組み」（児玉光広：秋田県建設部河川砂防課）

－地元の取組み紹介「地域における中学生による自然再生活動」（青谷晃吉：大仙市教育委員会教育アドバイザー）

（14:00～17:00）ワークショップ「道の駅と直結した水辺の小さな自然再生と地域の賑わい創出」（仮）

■ファシリテーター：三橋弘宗：兵庫県立大学自然・環境科学研究所

JRRN 事務局からのお知らせ (2)　*JRRN Activity Report*

「桜のある水辺風景 2018」写真大募集のお知らせ【予告】

JRRN では、今年も「桜のある水辺風景」の作品募集を予定しています。昨年は過去最多の 128 名の方々より 292 点もの作品をご応募いただきました。

応募方法は昨年と同様に、メール、Facebook での応募を予定しています。

応募開始時期は 3 月を予定しています。今年は全国的に寒波の影響が強くまだまだ「桜どころではない」という人も多いかもしれませんが、天候がよくなりましたら、水辺にどんどん出かけて、桜のある風景を探してみて下さい。

※「桜のある水辺風景」Facebook ページはこちら。
2016、2017 年の作品がご覧になれます。

https://www.facebook.com/sakuramizube/

※JRRN では、毎年、「桜のある水辺風景」の写真を募集し、応募作品を写真集として取りまとめ、PDF で HP から公開しています。 バックナンバーは以下より入手できます。

http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos

昨年度の投稿写真から

（JRRN 事務局・阿部 充）

JRRN 事務局からのお知らせ（3）　*JRRN Activity Report*

小さな自然再生普及プロジェクト－ 平成 29 年度河川基金優秀成果表彰のご報告

2018 年 1月28日（日）、公益財団法人河川財団主催の平成 29 年度 川づくり団体全国事例発表会が東京大学小柴ホールで開催され、JRRN が「小さな自然再生」研究会のメンバーと取組んだ平成 28 年度河川基金助成事業『「水辺の小さな自然再生」現地研修会による川づくり人材育成』が優秀成果賞に表彰されました。これは、昨年度に続く 2 度目の受賞で、JRRN 会員の皆様や「小さな自然再生」研究会メンバー、また現地研修会開催地関係者との協働の賜物です。

河川基金助成事業優秀成果表彰式

平成 29 年度川づくり団体全国事例発表会プログラム

【午前】
主催者あいさつ
来賓あいさつ
■第Ⅰ部　市民団体の実践事例発表
①（東京都）日本河川・流域再生ネットワーク
②（東京都）全国川ごみネットワーク
③（神奈川県）NPO 法人暮らし・つながる森里川海
④（神奈川県）NPO 法人鶴見川流域ネットワーキング
⑤（島根県）しまね体験活動支援センター
⑥（熊本県）次世代のためにがんばろ会
【午後】
■第Ⅱ部　ポスターセッション
ポスターセッション発表（２０団体）
表彰式
（平成 28 年度助成事業「川づくり団体部門」優秀成果）
閉会あいさつ

JRRN 事務局員も同発表会に出席し、午前中に事例発表、午後からポスター発表と表彰式に参加しました。事例発表では、昨年度実施した現地研修会（福岡県・上西郷川、兵庫県・武庫川、千葉県・神崎川）を中心に報告し、「小さな自然再生」という水辺・人・地域を繋ぐ協働のスタイルが各地で取り組まれていること、当活動の地道な成果が少しずつ各地の取組みの後押しにつながっていることを PR しました。

事例発表会の様子

午後のポスター発表では、「小さな自然再生」に興味を持った方々、同様の取組みを実践している方々との意見交換がなされ、活動の継続に関する各団体共通の課題や、より良い投資効果を得るための工夫など、今後の活動の参考となる情報が得られ、川づくり団体ならではの有意義な交流の場となりました。

発表したポスター

当活動へのご協力、ご指導いただきました皆様に感謝を申し上げるとともに、JRRN では今後も水辺でできる「小さな自然再生」を軸とした川・人・地域づくりに貢献してまいります。

（JRRN 事務局・後藤勝洋）

撮影：2017 年 8 月
（ 長崎県 東彼杵町）

あの日のあの川 リレー日記 ～第 35 話～

あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです．リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます．

第 35 話主人公　南波祐生

（筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川（直）研究室『川と人』ゼミ）

（□川ガール・■川系男子）

（出身地を流れる川：千葉県利根川）

「川を好きになった日」

いつのこと？： 22 歳のこと

どこの川？： 串川

今月号を任された南波です。正直に申し上げると、私はこのような文章を書くことを任されるようなタイプではないので～～～です。今も本当に自分が書かないといけないという事実を受け止めきれず、最後までこの責任を逃れようと必死に交渉しています。しかし、OB の川系男子からの繰り返される催促により、泣く泣く自分の川への思いをここに込めようと思いました。

まず自分の出身地は千葉県の野田市というところです。ここは二つの大きな川、利根川と江戸川に挟まれた土地です。川を見てもわかるように、子供では入ったら間違いなく死ぬような印象がありました。学校でも川には入るなと言われていて、大学生になって地元を離れるまで一回も川に入ったことはありませんでした。そう、私は近くに川が流れている土地に住んでいましたが、川との思い出が一つもありませんでした。

そんな私ですが、大学院で白川先生の川の研究室に入ってから転機が訪れました。それは川との接点を持たないといけなくなったということです。それは大学の近くの川を見に行ったり、川の中を 8km も走るマラソン大会に参加したりと、23 歳の川への興味がそんなになかった私には「嘘だろ…」と思わざるを得ないイベントでした。こんなに無理やりにでも川と接点を持ち出すとさすがに川を無視できない自分を認めざるを得なくなっていきました。

白川研のイベントはまだ終わりません。この研究室の一大イベント東彼杵でのゼミ合宿です。今回テーマにした川のある場所です。このゼミ合宿は白川研の ADS(あゆ、どじょう、しじみ)班が地元の人と協力して遡上実験や養殖を試みるというものでした。自分は ADS 班ではないので、この班の人たちのお手伝いという形で行きました。何をするのかは当日までわからない、お楽しみ？合宿でした。初日から遡上実験をする魚がいないため、川に自分たちが入り捕まえに行きました。自分たちは遅れて入ったのですが、先に入っている人たちが水や泥で体を汚くしているところを遠目で見ると入るのは気が引けました。しかし、川に入ろうとしないのは女の子の中でも本当にきれい好きで川には絶対入らないという信念を持った人だけだったため、しょうがなく入りました。川に入ったところ案の定という感じでした。真っ先に靴と靴下に浸水し、自分の心にも川が浸水してきました。靴と靴下と心、これ以上は浸水させまいとしていましたが無理でした。研究室の同期からの水かけにより服にも浸水し私の意志はもうお亡くなりになりました。どうでもよくなってしまったので、川の深いところに入ったり、草の下や岩の下から魚を捕まえるという自分のイメージと違うことをし始めました。いつまで川の中に入っていても一向に終わる気配が見えず、疲労はピークに達しました。諦めて引き返そうとしたとき自分の視界に形容しがたいが、昔の子供はこの景色を見て育ったんだろうと感じざるを得ない昔ながらの夏だーという景色が広がりました。今まで The 現代っ子として生きてきましたが、この瞬間に自分の中に眠る昔ながらを心から楽しむ自分が目を覚ましたような感覚になりました。それから疲れが吹き飛んだかのようにまた川で遊び始めました。このゼミ合宿は四日間にわたるもので四日間ともに川に入るとは思っていませんでしたが初日のあの感覚の甲斐あってか、疲れはしましたが毎日が楽しい川遊びをするゼミ合宿でした。来年も白川研究室ではこのゼミ合宿はもちろんあるし、川にまつわるイベントはたくさんあります。この一年川への興味の元川についてしっかり勉強し、これらからのイベントをより心から楽しんでいこうと感じた一年でした。

（次号は 3 月号にて加藤さんにバトンを託します）

JRRN 会員寄稿（3） ***JRRN Member Contribution***

水辺からのメッセージ *No.105*

岡村幸二（JRRN 会員）

川を scan する：

紫川を眺めながら、遊んで、学べる水環境地下空間

撮影：2014 年 12 月（福岡県北九州市・紫川）

◆川の“今”を知る場所

水環境館は、河川情報展示ゾーンと市民交流ゾーンで構成された本格的な水環境体験館です。大きさ 2.3m ×7.2m の河川観察窓からは川に棲む生き物や、淡水と海水の境界面（塩水くさび）などが観察できます。

◆市民のアイデアから発想

「一番身近な自然」の川を知るため、中 3 の生徒（当時）のアイデアによる水中観察のガラス窓。またアユ博士の故日高教授の提案により、水深、流量、水質なども調べられます。市民ギャラリーでは子供たちが体験学習を楽しんでいます。

JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）

JRRN 会員・ARRN 関係者からのお知らせ（2018 年 1 月末まで提供分） *Information from member*

【JRRN 会員からの提供情報】

京の川フォーラム～京都の川、その特性を語る（2/10 開催）

カッパ研究会より、河川文化 80 号発行記念企画「京の川フォーラム」のご案内を頂きました。

■日時：2018 年 2 月 10 日（土）
13:00～17:30
■場所：同志社大学烏丸キャンパス志高館
■参加費：無料

◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2984.html

【JRRN 会員からの提供情報】

デ・レイケ導流堤シンポジウム in 大川（2/24 開催）

古賀河川図書館より、デ・レイケ導流堤シンポジウムのご案内を頂きました。

■日時：2018 年 2 月 24 日（土）
13:00-18:00
■場所：おおかわ交流プラザ大川シネマホール（福岡県大川市）
■参加費：無料

◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2996.html

【JRRN 会員からの提供情報】

長編ドキュメンタリィ映画『柴井堰と生きる』上映会＆シンポジウム（2/18 開催）

「川原園井堰映像記録製作委員会」事務局より映画上映会＆シンポジウムのご案内を頂きました。

■日時：2018 年 2 月 18 日（日）
13:00～17:40
■場所：串良公民館 別館大ホール（鹿児島県鹿屋市）

◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3008.html

【JRRN 会員からの提供情報】

第 5 回『清流長良川流域の生き物・生活・産業』連続講座　最終回（2/18 開催）

愛知県振興部土地水資源課水資源計画グループより長良川連続講座（最終回）のご案内です。

■日時：2018 年 2 月 18 日（日）
13:30～16:30
■場所：ウィルあいち 3 階 大会議室（名古屋市東区）

◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3018.html

【JRRN 会員からの提供情報】

第 13 回川の日ワークショップ関東大会（3/17 開催）

第 13 回「川の日」ワークショップ関東大会実行委員会より本年のワークショップのご案内を頂きました。

■日時：2018 年 3 月 17 日（土）
11:00-17:00
■場所：筑波大学 総合研究棟 研究棟 B（茨城県つくば市）
■参加費：無料

◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/3000.html

【JRRN 会員からの提供情報】

第 22 回 荒川流域再生シンポジウム（3/17 開催）

NPO 法人荒川流域ネットワークより本年の流域再生シンポジウムのご案内を頂きました。

■日時：2018 年 3 月 17 日（土）
13:00-16:30
■場所：国立女性教育会館 101 研修室（埼玉県比企郡嵐山町）
■参加費：無料

◆詳細は以下参照
http://jp.a-rr.net/jp/news/member/2991.html

会議・イベント案内（2018 年 2 月以降）　*Event Information*

（国内の河川・流域再生に関する主なイベント）　※前頁でご案内した行事は本欄では掲載していません。

■2018 年世界湿地の日記念シンポジウム

○日時：2018 年 2 月 2 日（金）14:00～17:00

○主催：日本国際湿地保全連合　他

○場所：　国連大学国際会議場（東京都渋谷区）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2734.html

■かわまちづくり全国会議

○日時：2018 年 2 月 9 日（金）　14:20～17:50

○主催：国土交通省水管理・国土保全局

○場所：　全電通労働会館ホール（東京都千代田区）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2745.html

■公開シンポジウム「自然を活かして防災する」

○日時：2018 年 2 月 10 日（土）14：00 － 17：20

○主催：環境省環境研究総合推進費研究グループ他

○場所：　福井県立三方青年の家（福井県若狭町）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2730.html

■自然環境復元学会　第 18 回全国大会（研究発表会）

○日時：2018 年 2 月 14 日(水)　10:00～17:00

○主催：自然環境復元学会

○場所：日本大学駿河台キャンパス 1 号館(東京都千代田区)

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2705.html

■第 8 回「小さな自然再生」現地研修会 in 秋田・斉内川

○日時：2018 年 2 月 27 日（火）9：30～17：00

○主催：「小さな自然再生」研究会、秋田県、JRRN

○場所：　大曲地域職業訓練センター（秋田県大仙市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2736.html

■第３回　防災・減災シンポジウム

○日時：2018 年 2 月 28 日（水）　13:30-16:30

○主催：国土交通省九州地方整備局河川部

○場所：　久留米シティプラザ（福岡県久留米市）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2740.html

■2018 年度河川技術に関するシンポジウム

○日時：2018 年 6 月 12 日（火）～13 日(水)

○主催：土木学会水工学委員会河川部会

○場所：　東京大学農学部弥生講堂（東京都文京区）

http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2703.html

皆様からのイベント情報提供をお待ちしています！

全国で河川再生に関わる様々な行事が開催されています。ローカル情報の PR や共有を目的に、皆様からの情報提供をお待ちしております。

書籍等の紹介　*Publications*

■　水辺の小さな自然再生～あなたもはじめてみませんか？（2017.3 発行）

・発行：「小さな自然再生」研究会／日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・発行年月：2017 年 3 月

・ページ数：　16 ページ

水辺でできる小さな自然再生の更なる普及促進を目的に、小さな自然再生の概要や取組む際の留意点、また「小さな自然再生」研究会による普及促進活動を紹介した簡易冊子です。

■　河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう　市民による河川環境の評価～（2014.3 発刊）

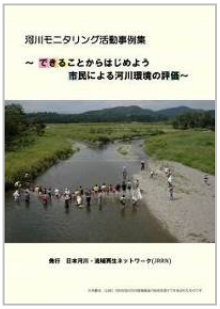
・監修：白川直樹　筑波大学准教授（JRRN 理事）

・執筆協力：　河川再生に携わる市民団体や行政機関

・編集：　JRRN 事務局、筑波大学白川（直）研究室

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）

・出版年月：2014 年 3 月



市民が主体的に取組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

上記冊子の「印刷製本版」入手方法　※PDF 版はこちらから：　http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。（JRRN 会員限定）

JRRN 会員募集中　　*JRRN membership*

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。

(2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。

(3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。

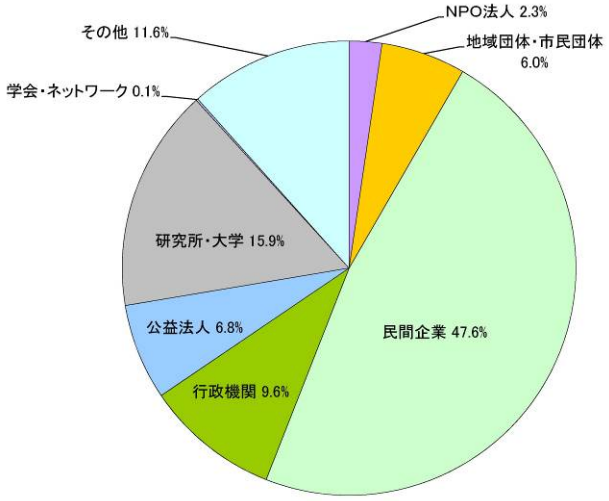
(4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。

(5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧下さい。

http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html



2018 年 1 月 31 日時点の個人会員の所属構成

（個人会員数：770 名、団体会員数：59 団体）

※1 月の新規入会数：　個人会員 1, 団体会員 0

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員（一般）
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール（週1回）の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュール（ARRN Newsletter等）の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：　http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)　事務局

〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号　NMF 茅場町ビル 7 階　(公財)リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3865　Fax:03-3523-0640　E-mail: info@a-rr.net

URL: http://www.a-rr.net/jp/　Facebook: https://www.facebook.com/JapanRRN

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

公益財団法人 リバーフロント研究所　　建設技術研究所 国土文化研究所